



Joyful Naturalist



Contents

Topics

- * 祝・はなみずきの丘の公園全面開園
- * 和光大学どんとこい祭
- * 水生生物調査
(梅木窪・堂谷戸川、鶴見川鎧塚付近)

NPO法人鶴見川源流ネットワークプロジェクト活動
鶴見川源流ネットワーク参加団体活動

11月、12月の活動報告

1月、2月の活動予定

No.161

迎春・鶴見川源流2008



あけましておめでとうございます。

大荒天との心配をよそに、あたたかく晴れわたる午前6時半。開園直後の杉谷戸展望広場（「はなみずきの丘・風の広場」）は、源流ネットスタッフ9名を含む30人を越す市民で賑わいました。6時50分。七国山の左の稜線上の小さな雲がダイヤモンドのように強く輝き、大気を射抜き広がる初日の光芒が源流の森を明るく染めあげると、小さな拍手がおこりました。2008年初日の出。西の最源流・保水の森一帯から、東の小野路・七国山まで視野いっぱい、壮大な町田北部丘陵鶴見川源流の天地は、本当に穏やかな年明けとなりました。

2004年の町田市による源流保水の森保全にはじまり、上小山田、小野路西部地区は、土地区画整理中止後の都市基盤整備の継続と広大な農地・山林・水系の保全・活用の調和ある推進にむけ、行政・地元・市民団体による新しい希望と苦難の時代がはじまっています。進むべき基盤整備、遠くきこえ始めた小田急延伸、中央新幹線計画の動向。そんな展開の中で、いるか丘陵みどりの瞳、鶴見川源流保水の緑を、地域にも流域にもそして首都圏広域にも存分に価値あるものとして活かすどのような街づくりをすすめてゆくことができるのか。この大地と空のもとに広がる源流の自然を、環境回復の文明を待望する地球の未来にどのような宝として引き継いでゆけるか。一足先に保全・整備のすすむ最源流田中谷戸保水の森、全面開放されたはなみずきの丘（杉谷戸）の「みつやせせらぎ公園」、「風の広場」、そして最大の緑の拠点「小山田緑地」の緑と水系のお世話をつづける源流ネット一同、新たな勇気と流域・丘陵の連携をもって、日々の工夫を重ねてゆきます。大地と人の安らく未来に心沿わす老若男女、未来を生きる子どもたち、その活動の地に、賑わい、来たれ。

【岸 由二 NPO源流ネット代表理事】